すごい!!

奈良の木を知ろう!

吉野杉や吉野桧など
奈良が誇る木があるんだよ

県の面積の約77%を森林が占める奈良県。良い木を育てるには、年月はもちろん、手間をかけて育てることが大切なんだよ。ここでは、奈良の木の特長や育て方、また森林の役割について学んでみよう。

長い年月と手間をかけて、大きくてまっすぐな木が育つんだね。

奈良の木って何？

吉野林業地域（黒滝村）の森林

奈良県にはおよそ500年もの歴史を誇る林業があり、今でも続いています。100年以上も前の人が植えた木々を現代まで受け継ぎ、大きく育て、そして次の世代へとつないでいます。長い年月をかけ、何代にもわたって大切に育てられているのが奈良の木です。古くは、豊臣秀吉の大坂城や伏見城にも使われ、江戸時代には、江戸へ運ぶ酒樽の材料として重宝されました。現代においても、特に吉野林業地域の吉野杉や吉野桧は「吉野材」として、全国的に優良材として知られています。

奈良の木は強さと美しさをかねそなえているんだね。

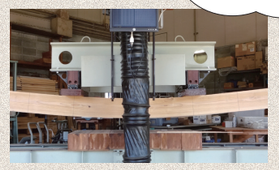
奈良の木が優れているポイントは？

❶節が少ない

木の状態を見抜いて、余分な枝を取る「枝打ち」という作業をこまめに行うことで、枝の跡である「節」が少ない木が育ちます。

❷年輪が均一で細かい

年輪とは木の切り口に見られる同心円の輪のこと。1年成長するごとに一重ずつ増えるため、年輪の数はその木の年齢です。奈良の木は、この年輪の幅が細かく均一で美しいのが特長。何百年も受け継がれた育成方法によって、作りあげられたものです。



❸優れた強度

奈良の木は、年輪が細かく密度が高いことから、一般的なスギやヒノキより強く、たわみにくい性質があります。木材の強さを示す「ヤング係数」という基準では、奈良県のスギとヒノキは全国平均値より高い数値。このことからも優れた強度であることがわかります。

❹美しい色合い

奈良の木は、美しい色合いを楽しむことができるのも魅力の一つ。スギの心材は、ほかの地域のスギには見られにくい赤みが混じった上品な色合いで、古くから高級な和室などに使用され愛されてきました。ヒノキは繊細で品のある淡いピンク色が絶妙に映えます。

奈良の木の育て方の特徴は？

まっすぐに育ち、きめ細やかな年輪となる奈良の木は、「密植・多間伐・長伐期」によってできるんだよ

一般的な植栽

奈良県の植栽

間引くことで太陽光が射す

密植

一般的な林業では1ｈａ（100m×100mの広さ）あたりに苗木を3,000本植えるのが目安といわれていますが、吉野林業地域では、1ｈａあたり8,000～12,000本ものたくさんの木を植える「密植」をおこなっています。こうすることで、木はゆっくり上に向かって成長し、年輪幅が狭く、まっすぐな木が育ちます。

長伐期

一般的な育成林では、40～50年ぐらいで伐採されますが、吉野林業地域では、約2倍程度の80～100年まで育ててから伐採しています。これを「長伐期施業」といいます。ゆっくり丁寧に育てられた木は強度があり木目も非常に美しくなります。

多間伐

間伐とは、森林が茂りすぎるのを防ぐため、良い木を残し他の木を切って間引くことです。吉野林業地域では、木の成長に合わせて、何度も間伐を繰り返し、太陽光がしっかり入るよう「多間伐」をおこなっています。

手間をかけた育成方法をずっと受け継いでいるんだね。

地元地域の木を使うことは、森林を守ることにもつながるんだよ

森林の4機能

生物多様性保全機能

●さまざまな動物・植物が育ち、生きる場所となっています。

森林資源生産機能

●木材やきのこ、山菜、きれいな水など大切な資源を作ります。
●二酸化炭素を吸収し、炭素をたくわえることで地球温暖化を防止します。

レクリエーション機能

●美しい景観を守り、教育や芸術を楽しむ場所となっています。
●健康の維持・増進やレクリエーション活動の場となっています。

防災機能

●木の根が土砂や岩石などを固定して、土砂の崩壊を防ぎます。
●降雨を地下に蓄え、少しずつ流すことにより洪水を起こりにくくします。

わたしたちが奈良の森林を守るためにできること

1 奈良の木に触れる
森林を訪れたり、木工体験などをとおして木に触れ合ってみよう。

2 奈良の木を学ぶ
タブレットなどで調べて、どのように育てられているかを学ぼう。

3 奈良の木を使う
わりばしや木の食器など、木で作られた道具を積極的に使おう。

奈良の森林を守るためにできることからしていこう！

奈良の木についてもっと知りたいなら
奈良の木のこと
NARA no KINOKOTO